

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

生活支援における具体的な介護技術を学ぶ。  
 利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方などを学ぶ。  
 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的を理解する。

- 1) 自立に向けた身じたくの介護
- 2) 自立に向けた移動の介護
- 3) 自立に向けた入浴の介護
- 4) 自立に向けた排せつの介護
- 5) 自立に向けた食事の介護

## 授業終了時の到達目標

利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うことができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり。

## 時間外に必要な学修

事前にテキストを熟読しておくこと。

回	テーマ	内容
1	【自立に向けた身じたくの介護】 生活とは	介護福祉職として、「ひとの生活」の基礎的理解
2	【自立に向けた身じたくの介護】 自立した身じたくとは	疾病や障害があり介護を必要な人の「自立」した身じたくについて学習します。
3	【自立に向けた身じたくの介護】 アセスメント	対象者のアセスメント=情報を集めるグループワークを行ってみましょう。
4	【自立に向けた身じたくの介護】 整容、衣生活の調整	生活のリズムをと整える 健康維持 自分らしさの表現、生活の中の楽しみ
5	【自立に向けた身じたくの介護】 身じたくの介助	利用者の現状を情報として捉える 介護を行う際の確認ポイント
6	【自立に向けた身じたくの介護】 利用者の状態に合わせた介護の留意点	洗顔 整髪 ひげそり
7	【自立に向けた身じたくの介護】 多職種役割と協働	他職種の役割と介護福祉職との連携 医療 美容・理容師 福祉環境コーディネーター ケアマネージャー
8	【自立に向けた身じたくの介護】 実技テスト	ベッドメイキング 身じたくに関する介護技術
9	【自立に向けた移動の介護】 移動の意義と目的	移動のあり方 介護福祉職のすべきこと 全介助 一部介助
10	【自立に向けた移動の介護】 アセスメント	心身の状況に合わせた介護を行うために 情報収集 利用者を理解する

回	テ ー マ	内 容
11	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動の介護	歩行のあり方 介護福祉職のすべきこと 全介助 一部介助
12	【自立に向けた移動の介護】 歩行介助の留意点	視覚障がい者への支援方法 ・施設内、施設外
13	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動・移乗の介護	車いす操作方法 移乗 移動
14	【自立に向けた移動の介護】 移乗時の留意点	全介助・一部介助時の留意点
15	【自立に向けた移動の介護】 福祉用具の意義	公的制度における福祉用具サービス 障害者総合支援法における福祉用具サービス

回	テ ー マ	内 容
16	【自立に向けた移動の介護】 多職種連携	移動に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
17	【自立に向けた移動の介護】 実技テスト	起居介助 車いす介助 全介助・一部介助
18	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 清潔保持の観点	清潔・入浴の目的 一連の流れ
19	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 多職種連携と介護福祉士としての役割	清潔保持に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
20	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 アセスメント	入浴時のアセスメント項目 利用者の状態への理解と関わり方
21	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	個浴 特浴 (一部・全介助)
22~ 23	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	シャワー浴 清拭・陰部洗浄 (一部・全介助)
24	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	臥位での足浴
25	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 入浴後の観察	バイタル 水分補給
26	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 ふりかえり	自立に向けた清潔・入浴の介護 ふりかえり
27	【自立に向けた排せつの介護】 排せつの意義と目的	自立した排せつとは 自立した排せつの一連の流れ
28	【自立に向けた排せつの介護】 アセスメント	排せつの介護 心身の状況に応じた介護
29	【自立に向けた排せつの介護】 環境整備	介護職としての環境整備
30	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助1	排せつの一連の流れ
31	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助2	ベッド上 おむつ交換 尿器 便器 一連の流れ
32	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助3	トイレ介助① トイレ・ポータブル誘導
33	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助4	トイレ介助② おむつ リハビリパンツ
34	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつの介助5	歩行可能な利用者の介助 一部介助 半介助 全介助
35	【自立に向けた排せつの介護】 多職種の役割と協働	関連した多職種の役割 介護職としての排せつの役割
36	【自立に向けた排せつの介護】 実技テスト	おむつ交換・トイレ介助

回	テーマ	内 容		
37	【自立に向けた食事の介護】 食事の意義と目的	食事をとるとは 高齢者にとっての食事の意義		
38	【自立に向けた食事の介護】 アセスメント	利用者の状態を把握する上で必要な視点 情報収集		
39	【自立に向けた食事の介護】 食事介助1	自立に向けた食事介助方法		
40	【自立に向けた食事の介護】 食事介助2	全介助の一連の流れ		
41	【自立に向けた食事の介護】 多職種連携の役割と協働	自立した食事につなげるための多職種連携とは		
42	【自立に向けた食事の介護】 実技テスト	ベッド上での食事介助		
43	事例検討1	グループワーク ・食事介助が必要な利用者への支援方法 ・水分不足の利用者への支援方法		
44	事例発表	発表		
45	まとめ	自立に向けた生活支援技術の展開とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I 6・II 7・III 8 中央法規 出版 適宜資料 プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 30.0% 30.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 I		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美
授業の概要				
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開できる基本的な考え方や実践で展開することのできる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
介護過程の意義を理解し、利用者の課題を抽出し、個別介護計画書の作成を行うことができる。介護計画書に沿って介護を行う根拠を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	生活の過程	利用者の生活上の課題		
2	介護過程の意義と基礎的理解1	介護過程の意義・目的 プロセス		
3	介護過程の意義と基礎的理解2	生活支援における介護過程の必要性		
4	情報収集とアセスメント	情報を集める 情報の解釈・関連づけ・統合化		
5	アセスメントと介護計画の関連性	介護過程とICF		
6	直接的な情報収集	利用者の表情やしぐさなどから推察する		
7	間接的な情報収集	介護記録・その他の職種の記録からの情報収集		
8	生活歴の理解	その「ひと」の生活の歴史とは		
9	医学モデルの視点 ICIDHの理解	ICIDHの視点		
10	生活モデルの視点 環境因子、個人因子について	環境因子 個人因子の理解		
11	ICFの考え方に基づく介護計画の立案①	介護過程の立案 その「ひと」をみる		
12	ICFの考え方に基づく介護計画の立案②	介護過程の立案		
13	思考過程	様々な場面での支援内容の理解		
14	介護計画の作成	個別ケア提供における介護計画の意義 立案方法		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	介護計画		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 出版 適宜資料 プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 60.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷とともに、人間の尊厳や人権・権利擁護について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
人間の尊厳と人権、福祉理念について理解する。 自律のあり方について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別養護老人ホーム、相談員(1年) 訪問介護事業所、管理者(4年)		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、過去問	人間の尊厳と自立の概要 過去問にチャレンジ		
2	人間の尊厳と利用者主体	人間を理解すること 利用者主体		
3	人権思想の潮流とその具現化	人権思想の潮流 自由権と生存権		
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法 社会福祉法など		
5	人権・福祉理念の変遷①	エリザベス救貧法～		
6	人権・福祉理念の変遷②	戦後の福祉		
7	人権・福祉理念の変遷③	ノーマライゼーション、QOL、生命倫理		
8	人権尊重と権利擁護	利用者の人権と生活		
9	権利侵害の背景と権利擁護	権利侵害の背景 権利擁護の視点		
10	自律の概念の多様性	いろいろな視点から見た自立 ライフサイクルからみた自立		
11	自立とは	自立と自律 精神的自立		
12	介護を必要とする人々の自立と自立支援	自律のために必要なこと 自律への意欲と動機づけ		
13	自立支援の考え方・ICF	自立支援の考え方 ICIDHからICFへ		
14	尊厳の保持と自立、自立支援の関係性	尊厳を損なう可能性 尊厳を守る介護と自立支援		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ、テスト	前期のまとめ 試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規	出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 60.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係とコミュニケーションI		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーションについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
自分と他者、そして人間関係について理解する。 コミュニケーションの概念と言語的・非言語的コミュニケーションの特徴・機能を理解する。 対人援助における基本的態度や援助関係のための原則について理解する。 組織におけるコミュニケーションについて理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別養護老人ホーム、相談員(1年) 訪問介護事業所、管理者(4年)		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	人間らしさの始まり	オリエンテーション 人間らしさの始まり		
2	自分と他者の理解	先天的要素と後天的要素 自分と他者を理解する		
3	発達心理学からみた人間関係	エリクソンの発達段階説 社会性の発達		
4	社会心理学からみた人間関係	対人認知 集団と人間関係		
5	人間関係とストレス	ストレス コーピング		
6	コミュニケーションの概念と基本構造	コミュニケーションの概念 メッセージの送り手と受け手		
7	コミュニケーションの手段	言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション		
8	コミュニケーション演習	コミュニケーションの演習		
9	対人援助関係とコミュニケーション	人間関係の発展 人間関係の後退		
10	対人援助関係における基本的態度	受容、共感、傾聴		
11	バイスティックの7原則	個別化、受容、非審判的態度、意図的な感情表出 統制された情緒的関与、自己決定、秘密保持		
12	組織の条件とコミュニケーションの特徴	組織の条件 組織におけるコミュニケーション		
13	組織における情報の流れ	トップダウン、ボトムアップ メンバーシップ		
14	組織において求められるコミュニケーション	報告・連絡・相談 集団討議、ブレインストーミング		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ テスト	前期のまとめ 試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理 解 第2版」中央法規	出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会の理解 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
生活の基本となる社会のしくみや、家族や地域社会について学ぶ。 社会保障制度について詳しく学習する。				
授業終了時の到達目標				
生活を支える家族や地域社会についての理解を深める。 日本の社会保障制度について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別養護老人ホーム、相談員(1年) 訪問介護事業所、管理者(4年)		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。				
回	テーマ	内容		
1	生活の基本機能	「生活」とは 「社会生活」のメカニズム		
2	ライフスタイルの変化	生活と働き方の変化 少子高齢化		
3	家族の機能と役割	家族とは 家族の機能		
4	社会・組織の機能と地域社会	社会・組織の機能と役割 地域社会の概念と地域社会の変化		
5	地域福祉の発展	地域福祉の発展 コミュニティソーシャルワーク		
6	地域包括ケア	地域共生社会 地域包括ケア		
7	社会保障の基本的な考え方	社会保障の意義と役割 社会保障の目的と機能		
8	日本の社会保障制度の発達	戦後の社会保障の発展 社会保障の見直し		
9	日本の社会保障制度のしくみ	社会保障のしくみ 社会保障制度の体系		
10	年金保険制度	年金保険制度のしくみ		
11	医療保険制度	医療保険制度のしくみ		
12	労働保険	雇用保険 労災保険		
13	社会扶助	生活保護 その他の社会扶助		
14	現代社会と社会保障制度	少子高齢化と社会保障 財政問題		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ・テスト	前期のまとめ 試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版」中央法規	出席率 授業態度 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
介護保険制度および障害者総合支援法について学習する。 高齢者福祉に関わる諸制度や権利擁護について学習する。				
授業終了時の到達目標				
介護保険制度について詳しく説明できるようになる。 障害者総合支援法および権利擁護などの関連諸制度について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別養護老人ホーム、相談員(1年) 訪問介護事業所、管理者(4年)		
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	高齢者保健福祉と介護保険制度の動向	高齢者福祉の歴史と動向		
2	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢社会対策基本法 老人福祉法その他		
3	介護保険制度創設の背景と目的	介護保険制度創設の背景 介護保険制度の目的		
4	介護保険制度のしくみ	保険者・被保険者、保険料など		
5	介護保険サービスの利用手続きとケアマネジメント	要介護認定 ケアマネジメント		
6	介護保険サービス	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス 地域支援事業		
7	障害者保健福祉の動向	歴史と現状 障害者福祉の動向		
8	障害者保健福祉に関連する法体系	障害者の法的定義 関連する法律		
9	障害者総合支援法制定の背景と目的	障害者総合支援法の制定 目的		
10	障害福祉サービスの種類	自立支援給付 地域生活支援事業		
11	財源と利用手続き	財源と利用者負担 利用手続き、障害支援区分		
12	個人の権利を守る制度・施策	虐待防止、消費者保護 成年後見制度		
13	保健医療に関する制度・施策	生活習慣病予防 保健医療に関する制度		
14	地域生活を支援する制度・施策	就労支援 住生活支援		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ・テスト	後期のまとめ 試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版」中央法規	出席率 授業態度 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
マナー		介護福祉学科/1年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	板東 里枝
授業の概要				
マナーの基本 接客対応				
授業終了時の到達目標				
マナーを習得し、利用者やその家族の満足を満たす。サービスの質を高める。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	動機付け Ⅰ ベーシックマナー	1. 接遇の基本 2. さわやかな第一印象 ①身だしなみ ②表情 ③体勢 ④動作 ⑤話し方		
2~ 3	Ⅰ ベーシックマナー	3. 敬語について ①丁寧語 ②尊敬語 ③謙讓語		
4~ 5	Ⅰ ベーシックマナー	4. 接遇基本用語 5. ビジネス会話について		
6~ 7	Ⅱ 接客対応の実際	6. 来客対応について ①受付 ②案内 ③接待		
8~ 9	Ⅱ 接客対応の実際	7. 電話対応 ①電話の特性 ②電話対応 ③苦情処理の原則		
10~ 11	Ⅲ 接客対応 実践	来客対応 ロールプレイング 電話対応 ロールプレイング		
12	Ⅳ 交際業務	慶事弔事のマナーについて		
13~ 14	Ⅴ 職場のマナー	出勤から終業までのマナー 公私の区別 機密保持の心得		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配付資料		出席率 確認問題	30.0% 30.0%	

回	テ ー マ	内 容	
	期末試験	40.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
介護福祉士が必要とされている背景と、その専門性や職業倫理について学ぶ。 自立支援の観点から職業実践できる能力を養う。				
1. 介護福祉士とは 2. 介護福祉士の役割と機能 3. 介護福祉士の倫理 4. 自立に向けた介護福祉のあり方				
授業終了時の到達目標				
介護福祉士の専門性を理解し、求められる職業倫理に従って行動できる。 利用者の尊厳を支え、自立を支援するための実践能力を身につけることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院で看護師として8年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
予習、復習				
回	テーマ	内容		
1	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉士を取り巻く状況】 介護の成り立ち		
2	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉士を取り巻く状況】 介護福祉を取り巻く状況		
3	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉の歴史】 老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策		
4	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉の歴史】 1970～1980年代		
5	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉士の歴史】 1990年～2000年以降		
6	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉の基本理念】 介護福祉の理念とは		
7	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉の基本理念】 尊厳を支える介護		
8	介護福祉士の基本となる理念	【介護福祉の基本理念】 自立を支える介護		
9	介護福祉士の基本となる理念	学習のまとめ(確認テスト)		
10	介護福祉士の役割と機能	【社会福祉士及び介護福祉法】 社会福祉士及び介護福祉法		
11	介護福祉士の役割と機能	【社会福祉士及び介護福祉法】 社会福祉士及び介護福祉法に関連する諸規定		
12	介護福祉士の役割と機能	【介護福祉士の活動の場と役割】 地域包括ケアシステム		
13	介護福祉士の役割と機能	【介護福祉士の活動の場と役割】 介護予防 医療的ケア		

回	テ ー マ	内 容
14	介護福祉士の役割と機能	【介護福祉士の活動の場と役割】 人生最終段階の支援 災害時の支援
15	介護福祉士の役割と機能	【介護福祉士に求められる役割とその養成】 介護福祉士養成教育の始まり 社会福祉専門職に求められる役割の拡大 介護福祉現場での中心的役割としての介護福祉士への期待

回	テーマ	内 容		
16	介護福祉士の役割と機能	【介護福祉士に求められる役割とその養成】 チームリーダーとしての介護福祉士への期待		
17	介護福祉士の役割と機能	【介護福祉士を支える団体】		
18	介護福祉士の役割と機能	学習のまとめ（確認テスト）		
19	自立に向けた介護	【介護福祉における自立支援】 自立支援の考え方 利用者理解の視点		
20	自立に向けた介護	【介護福祉における自立支援】 意思決定支援 生活意欲と活動		
21	自立に向けた介護	【介護福祉における自立支援】 就労支援 自立と生活支援		
22	自立に向けた介護	【ICFの考え方】 介護におけるICFのとらえ方①		
23	自立に向けた介護	【ICFの考え方】 介護におけるICFのとらえ方②		
24	自立に向けた介護	【自立支援とリハビリテーション】 リハビリテーションとは リハビリテーションの実際		
25	自立に向けた介護	【自立支援とリハビリテーション】 リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価 リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割		
26	自立に向けた介護	自立支援と介護予防】 介護予防の概要 介護予防の種類と展開		
27	自立に向けた介護	【自立支援と介護予防】 高齢者の身体特性と介護予防		
28	自立に向けた介護	【自立支援と介護予防】 介護予防の実際 自立支援と介護予防 介護予防における介護福祉士の役割		
29	自立に向けた介護	学習のまとめ（確認テスト）		
30	まとめ・前期末テスト	1年間の学習のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 基本 I 中央法規 出版	介護福祉士養成講座 3 介護の基本	出席率 授業態度 確認テスト  期末試験	10.0% 10.0% 30.0%  50.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
介護サービスを提供する対象者や場に問わず、あらゆる介護場面に凡用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 介護を必要とするひとの理解 1) 高齢者の暮らし 2) 障害のある人の暮らし 3) 生活環境の理解 4) 介護福祉職者の安全				
授業終了時の到達目標				
高齢者の暮らしを理解することができる。 障害のある人たちの生活ニーズを見出し、生活を支えるサービスを理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	介護実践における連携	多職種連携の意義と目的、その他の福祉職種の機能と役割について		
2	保険医療職種の機能と役割	その他の関連職種の種類と役割 協働の必要性		
3~ 4	多職種連携1.2	保健・医療・福祉職の役割と機能		
5	多職種連携3	専門職連携実践(IPW)		
6	多職種連携4	自立支援介護における多職種連携の実際 p.192		
7~ 8	多職種連携5	地域包括支援センターの機能と役割協働に求められる基本的な能力 P.68		
9	多職種連携4	地域連携 まとめ		
10	障害のある人の暮らしの理解	障害者のあるひとの暮らしの理解		
11	障害のある人のニーズ1	そのひとらしさと生活ニーズの理解 生活のしづらさ		
12	障害のある人のニーズ2	フォーマル・インフォーマルサービス		
13~ 14	障害のある人のニーズ3	介護福祉士に求められる支援の視点 グループワーク		
15	まとめ	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ		
16	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 リスクマネジメント		

回	テ ー マ	内 容
17	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 観察
18	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 予測・分析

回	テ ー マ	内 容		
19	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 転倒・転落・骨折の原因		
20	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 安全対策		
21	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 適切な技術の展開		
22	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 記録		
23	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 記録の書き方		
24	介護における安全の確保とリスクマネジメント	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 記録（事故報告書・ヒヤリハット）		
25	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的		
26	介護従事者の安全	心の健康管理		
27	介護従事者の安全	腰痛予防		
28	介護従事者の安全	労働安全		
29	介護従事者の安全	環境の整備		
30	後期末テスト	まとめ 試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護の基本 I	介護福祉士養成講座 3	出席率	30.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う
最新 介護の基本 II	介護福祉士養成講座 4	授業態度	10.0%	
中央法規 出版		確認テスト	20.0%	
		課題・レポート	30.0%	
		期末試験	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

利用者1人ひとりの心身の状況に応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。  
チームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学び、その技術を習得する。

1. 介護におけるコミュニケーションの基本
2. 介護を必要とするひとへのコミュニケーション技法
3. 介護における家族へのコミュニケーション技法
4. 障害の特性に応じたコミュニケーション
5. 介護におけるチームのコミュニケーション

## 授業終了時の到達目標

介護を必要とするひとへの理解、援助的関係、関わる上でのコミュニケーション技法を理解できる。また、利用者を取り巻く家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。  
チームにおけるコミュニケーションに必要な記録や報告等についての技術を身につける。

実務経験有無	実務経験内容
有	介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり。

## 時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	【介護におけるコミュニケーションの基本】 コミュニケーションとは	介護におけるコミュニケーションの意義と目的 介護におけるコミュニケーションの展開過程 マズローの基本的欲求について
2	【介護におけるコミュニケーションの基本】 コミュニケーションの対象者について	コミュニケーションの果たす役割 介護福祉職の職務とコミュニケーション コミュニケーション支援の対象
3	【介護におけるコミュニケーションの基本】 援助関係とコミュニケーション	援助関係の特徴 援助関係を構築するための原則
4	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】 話を聞く姿勢、感情を察する技法	傾聴 受容 共感
5	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】話を聞く姿勢、感情を察する技法	パーソナルスペース 心理的距離 精神分析
6	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】話を聞く姿勢、感情を察する技法	言語・非言語 話を聴く態度 感情を察する技法 (グループワーク)
7	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】説得と同意、意欲を引き出す技法	利用者の自立した生活を実現するための動機づけ ・外発的動機づけ ・内発的動機づけ
8	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】説得と同意、意欲を引き出す技法	ものの見方の多様性と固定観念 解決思考アプローチ
9	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】説得と同意、意欲を引き出す技法	意思決定を支援するためのコミュニケーション リフレーミング

回	テーマ	内 容		
10	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】 集団におけるコミュニケーション技術	「集団」でコミュニケーションをはかる意義 「集団」とは 「集団」の種類		
11	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】 集団におけるコミュニケーション技術	「集団運営」 ・自由な集団のグループ運営 ・意図的な集団のグループ運営		
12	【介護を必要とするひとへのコミュニケーション技術】 集団におけるコミュニケーション技術	回想法 高齢者とのコミュニケーション場面		
13	【家族への助言・指導・調整】 家族への助言・指導・調整	家族の存在の重要性 支援のパートナー		
14	【家族への助言・指導・調整】 家族への助言・指導・調整	家族介護負担感 コミュニケーションによって把握すべき家族の気持ち インフォームド・コンセント 家族の意向表出の支援 相談の場づくり		
15	【家族への助言・指導・調整】 家族への助言・指導・調整	家族の相談に応じるコミュニケーション 業務としての家族への指導 利用者、家族の意向の調整		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 5コミュニケーション技術 中央法規 出版 適宜資料		出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 60.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
コミュニケーション障害について理解し、特性に応じた支援について学習する。 介護におけるチームのコミュニケーションについて学習する。				
授業終了時の到達目標				
さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援について理解する。 報告、記録、会議などのチームのコミュニケーション技術を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	特別養護老人ホーム、相談員(1年) 訪問介護事業所、管理者(4年)			
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。				
回	テーマ	内容		
1	前期の復習 コミュニケーションの基本	コミュニケーションの基本についての復習		
2	コミュニケーションに障害があるひとへの関わり方の基本	コミュニケーション障害とは コミュニケーション障害の原因		
3	コミュニケーションに障害があるひとへの関わり方の基本	情報収集 コミュニケーションのアセスメント		
4	コミュニケーションに障害があるひとへの関わり方の基本	言語的コミュニケーションをとるときの留意点 非言語コミュニケーションをとるときの留意点		
5	さまざまなコミュニケーション障害を抱えるひとへの支援方法	【視覚障害】 【聴覚障害】		
6	さまざまなコミュニケーション障害を抱えるひとへの支援方法	【構音障害】 【失語症】		
7	さまざまなコミュニケーション障害を抱えるひとへの支援方法	【認知症】 【発達障害】		
8	チームのコミュニケーションとは	チーム力 実践方法		
9	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談 目的と流れ		
10	記録について	記録の技術 記録の意義・目的 記録の種類、方法と書き方		
11	会議・議事進行・説明	介護福祉職が行う介護の意義や目的 会議の構成員とそれぞれの役割		
12	事例検討	事例検討を行う意義・目的 事例検討会の実践的展開		
13	情報の活用と管理	情報の活用と管理 個人情報保護と活用		
14	グループワーク	介護の場面におけるコミュニケーションについて 事例検討		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ テスト	後期のまとめ 後期試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版」中央法規	出席率 授業態度 実習・実技評価 期末試験	20.0% 10.0% 30.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	三木 春美

## 授業の概要

在宅のあり方を理解し、利用者・家族に対して生活の支援を行うための技術を身につける。  
災害や緊急時など、介護福祉士としての役割を理解することができ多職種協働を行うことができる。

## 1) 生活支援

- 2) 自立に向けた家事の介護
- 3) 応急手当の知識と技術
- 4) 災害時における生活支援
- 5) 人生の最終段階における介護

生活の豊かさを高める観点から余暇時間に行うレクリエーションについて知識・技術を身につける。

- 1) レクリエーション活動援助者の役割
- 2) レクリエーション活動計画の作成及び実施方法

## 授業終了時の到達目標

生活支援とは何かを理解し、適切な家事支援を行うことができる。  
他職種と連携し緊急時の対応を適切に行うことができる。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

有

介護施設10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり。

## 時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	【生活支援の理解】 生活支援とは	科目説明 生活支援とは
2	【生活支援の理解】 生活支援の基本的な考え方	ライフサイクルと生活の豊かさ 生活支援のポイント
3	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程	介護福祉士が行う生活支援とICFの意義
4	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程2	根拠ある生活支援技術 p.19
5	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ①	チームアプローチの重要性 生活場面により関わる主な職種
6	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ②	ライフステージとチームアプローチのあり方
7	【自立に向けた家事の介護】 自立した家事とは	自立生活を支える家事 一連の流れ
8	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護①	洗濯
9	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護②	部屋の掃除 風呂掃除 トイレ掃除 ゴミ捨て
10	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護③	裁縫 衣類・寝具の衛生管理
11	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護④	買い物

回	テ ー マ	内 容
12	【自立に向けた家事の介護】 他職種との連携	家事の介護における多職種との連携
13	【応急手当の知識と技術】 応急手当について	高齢者に起こりやすい主な事故 その予防の視点
14	【災害時における生活支援】 被災地での活動と生活支援	被災地で活躍する際に知っておくべきこと あるべき支援者の姿
15	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成1	ハザードマップの作成1

回	テ ー マ	内 容
16	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成2	ハザードマップの作成2
17	【災害時における生活支援】 まとめ	支援者としてのありかた
18	【休息・睡眠の介護】 睡眠とは	ひとにとって休息・睡眠の意味 日常生活における休息・睡眠の必要性
19	【休息・睡眠の介護】 状態に応じた睡眠の介護	休息・就寝時の介護職としての対応
20	【休息・睡眠の介護】 アセスメント	利用者の心身の状態
21	【休息・睡眠の介護】 環境整備	入眠の準備
22	【休息・睡眠の介護】 多職種連携による支援	不眠時の対応 多職種との連携
23	【休息・睡眠の介護】 まとめ	対応 介助方法
24	【人生の最終段階における介護】	人生の最終段階について
25	【人生の最終段階における介護】	終末期の定義
26	【人生の最終段階における介護】	死を迎えた人の介護 なくなった後の介護・グリーフケア
27	【人生の最終段階における介護】	終末期における本人と家族の意思
28	【人生の最終段階における介護】	痛みの理解
29	まとめ	
30	【レクリエーション】 レクリエーションの意義と目的	レクリエーションとは
31	【レクリエーション】 行事とは	行事 行事を行う意義
32	【レクリエーション】 福祉レクリエーション	福祉レクリエーション
33	【レクリエーション】 個別レクと集団レク	個別レク 集団レク
34	【レクリエーション】 個別レクリエーションプログラム	プログラム内容
35	【レクリエーション】 集団レクリエーションプログラム	プログラム内容

回	テーマ	内 容		
36	【レクリエーション】 多職種連携	多職種での参加 レクリエーションを行う際の環境面		
37~ 38	【レクリエーション】 レクリエーション企画	福祉レクリエーション		
39~ 40	【レクリエーション】 プログラム作成	コミュニケーションワーク		
41	【レクリエーション】 アイスブレイキング	アイスブレイキング		
42~ 44	【レクリエーション】 実践	実践		
45	【レクリエーション】 まとめ・評価	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新	介護福祉士養成講座 生活支援技術 中央法規 出版	出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価 期末試験	20.0% 10.0% 10.0% 30.0% 30.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習 I-①		介護福祉学科/1年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
<p>基本的な知識・技術を実習を通じ実践するための具体的方法を学ぶ。            学生自身の実践内容の分析、考察をし自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理観を養い、多様なニーズに対応できる能力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>介護施設等の概要と利用者の生活像を実習を通して理解し、介護福祉士としての役割を明確にできる。            他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法、マナーを習得する。            自身の実習目標、学習課題について前向きに言語化できる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院で看護師として8年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
介護実習				
回	テーマ	内容		
1	実習の意義と目的	介護福祉士養成教育のなかで、「介護総合演習」がどのような位置づけになっているかを学習する。		
2	介護実習の種類	介護福祉士養成カリキュラムと介護実習を学び実習 I と実習 II の目的、主な実習内容を学ぶ。		
3	実習準備	介護実習と関連する他科目の学習内容の確認、介護計画書の立案、実習に行く心得を学ぶ。		
4	実習先の特徴と学び施設理解1	訪問介護、通所介護、通所リハビリテーションのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
5	実習先の特徴と学び施設理解2	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームのサービス内容、利用者像などを学ぶ。		
6	実習先の特徴と学び施設理解3	グループホーム、小規模多機能居宅介護、軽費老人ホーム、障害者支援施設、医療院のサービス内容、利用者像を学ぶ。		
7	実習 I の意義、概要	実習 I の枠組み、理解しておく視点について学習する。		
8	マナー	実習前、中、後での態度や姿勢を学習する。 実習での学習内容をふりかえる。		
9	観察の意義・方法	「観察」の重要性、見るべきポイントを学習する。		
10	情報収集	ケアを行う際に必須な情報収集とは何か?どのように情報を集めるのかを学ぶ。		
11	情報分析シートの書きかた	情報分析シート、プロセスシートの記入方法		
12	記録の重要性	チームケアにおいて記録の重要性を学ぶ。		
13	記録の書き方	5W1Hについて学び、記録の記入方法を学習する。		
14	介護モデル	利用者の暮らしの場やコミュニケーションの必要性を学ぶ。		

回	テ ー マ	内 容		
15	介護モデル	利用者の状態や生活の課題を理解するために必要な観察眼を学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 適宜資料 プリント配布		出席率 授業態度  実習・実技評価	30.0% 20.0%  50.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキスト、配布資料等を用いて今回の学習内容の復習と予習を行う



作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅰ-②		介護福祉学科/1年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
<p>基本的な知識・技術を実習を通じ実践するための具体的方法を学ぶ。            学生自身の実践内容の分析、考察をし自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理観を養い、多様なニーズに対応できる能力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>介護施設等の概要と利用者の生活像を実習を通して理解し、介護福祉士としての役割を明確にできる。            他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法、マナーを習得する。            自身の実習目標、学習課題について前向きに言語化できる。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	病院で看護師として8年の実務経験あり			
時間外に必要な学修				
介護実習				
回	テーマ	内容		
1	介護モデル	利用者の暮らしの場やコミュニケーションの必要性を学ぶ。		
2	介護モデル	利用者の状態や生活の課題を理解するために必要な観察眼を学ぶ。		
3	介護モデル	利用者を取り巻く環境について学ぶ。		
4	介護実習中	実習中の意義と目的を理解する。		
5	介護実習後	実習後の学習と意義と目的を理解する。		
6	多職種連携	利用者の生活を支援するひとたちについて理解を深めます。		
7	事例分析1	施設利用者の生活を支援する人達への理解を深める。		
8	事例分析2	認知症のひとへの介護技術の展開		
9	事例分析3	利用者を取り巻く地域について学習する。		
10	事例分析4	対象者を取り巻く福祉・介護サービスについて学習する。		
11	実習Ⅱの意義、概要	実習Ⅱの枠組みを理解する。		
12	介護過程の展開を軸にした実習の目的	介護過程の展開を軸にした実習の目的について学習し、自身の目標設定を行う。		
13	実習モデル	介護過程を展開する介護実習であることと介護計画書の作成について学ぶ。		
14	実習のふりかえり①	利用者の安全、快適、自立に配慮できる介護について学習のふりかえりをする。		

回	テ ー マ	内 容		
15	実習報告①	視閲の概要、介護業務等 介護技術 感想・反省点		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 適宜資料 プリント配布		出席率 授業態度  実習・実技評価	30.0% 20.0% 50.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキスト、配布資料等を用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみ I- ①		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵
授業の概要				
介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の基本的欲求を理解したうえで、自己実現に向けた介護について考えることができる</li> <li>・学習や動機づけの理論を踏まえて適応の仕組みが理解できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		大学病院での看護師経験16年以上、看護学校専任教員・講師10年以上、日本語教師2年以上 【免許】看護師 介護支援専門員 国家資格キャリアコンサルタント クンセラー 介護教員養成講習修了 日本語教師養成講座修了		
時間外に必要な学修				
復習として、ワークシートの整理を毎回行う(テキストのポイントの確認)、提出物準備行動				
回	テーマ	内容		
1	健康とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WHOの健康の定義</li> <li>・健康づくりの概要</li> </ul>		
2	人はなぜ病気になるのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の判断と健康寿命について</li> <li>・健康を阻害する要因について</li> </ul>		
3	こころのしくみの理解 基本的欲求	介護を必要とする人の基本的欲求を支援する 生理的欲求、安全欲求		
4	こころのしくみの理解 社会的欲求	社会的欲求について 所属・愛情欲求、承認欲求、自己実現欲求		
5	こころのしくみの理解 自己概念	自己概念とは 自己概念に影響する要因、自己実現と尊厳		
6	こころのしくみの理解 国際的取り組み	高齢者のための国連原則について		
7	こころのしくみの理解 「こころ」とは何か	人間のこころの基本的理解 現代心理学の観点から		
8	こころのしくみの理解 脳の仕組み	脳をつくる細胞 細胞の集団がつくる機能		
9	こころのしくみの理解 認知のしくみ・学習	認知とは 学習とは		
10	こころのしくみの理解 記憶・思考のしくみ	記憶とは 短期記憶・長期記憶 思考過程の異常とは 妄想について		
11	こころのしくみの理解 感情・情動のしくみ	感情のしくみ、気分と情動との違いについて 感情の異常の種類		
12	こころのしくみの理解 意欲・動機づけのしくみ	人が行動を起こすときの動機づけとは何か 意欲はどのようにして湧くのか		
13	こころのしくみの理解 適応のしくみ①	欲求不満と適応のしくみ ストレス反応		

回	テ ー マ	内 容		
14	こころのしくみの理解 適応のしくみ②	高齢者の人格とは 適応規制／防衛機制の種類と理解		
15	まとめ 前期末試験	前期学習項目の復習おポイント整理 前期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新	介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ 中央法規	確認テスト 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ-②		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川村 久恵
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造・機能を介護実践との関連の中で理解する。</li> <li>・薬の知識について、介護実践との関連の中で理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践に必要な、人体の構造やボディメカニクスについて理解している。</li> <li>・介護実践に必要な薬の知識について理解している。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		大学病院での看護師経験16年以上 看護学校専任教員・講師10年以上		
時間外に必要な学修				
復習として單元ごとのワークシートを仕上げる 次回の授業内容を踏まえてテキストを読んで予習をする				
回	テーマ	内 容		
1	からだのしくみの理解①	身体の部位の役割①	1. 細胞・遺伝 2. 脳神経(中枢神経)	
2	からだのしくみの理解②	身体の部位の役割②	末梢神経、脳神経、脊髄神経	
3	からだのしくみの理解③	身体の部位の役割③	感覚器	
4	からだのしくみの理解④	身体の部位の役割④	呼吸器	
5	からだのしくみの理解⑤	身体の部位の役割⑤	循環器	
6	からだのしくみの理解⑥	身体の部位の役割⑥	消化器	
7	からだのしくみの理解⑦	身体の部位の役割⑦	泌尿器	
8	からだのしくみの理解⑧	身体の部位の役割⑧	骨・筋肉 1)	
9	からだのしくみの理解⑨	身体の部位の役割⑨	骨・筋肉 2)	
10	からだのしくみの理解⑩	身体の部位の役割⑩	骨・筋肉 3)	
11	からだのしくみの理解⑪	身体の部位の役割⑪	生殖器・内分泌のはたらき	
12	からだのしくみの理解⑫	身体の部位の役割⑫	血液・体液・リンパ	
13	関連する役割、および薬の知識①	1 心身の調和 2 生命の維持と恒常性のしくみ		
14	関連する役割、および薬の知識②	3 介護福祉職に必要な薬の知識		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ・期末試験	1から15回までのまとめ・復習 期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	最新 介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ 介護福祉国家試験問題	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
1. 人間の成長と発達・発達課題 2. 老年期の特徴と発達課題				
授業終了時の到達目標				
1. 人間の成長と発達・老年期について理解できる 2. 発達段階に応じた発達課題が理解できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修				
実習やアルバイトを通して高齢者の身体的特徴やかかわり方を理解してほしい。				
回	テーマ	内容		
1	人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の考え方		
2		成長・発達の原則・法則		
3		成長・発達に影響する要因		
4	人間の発達段階と発達課題	発達理論		
5		発達段階と発達課題①		
6		発達段階と発達課題②		
7		身体的機能の成長と発達		
8		心理的機能の発達		
9		社会的機能の発達		
10	老年期の特徴と発達課題	老年期の定義		
11		老化とは		
12		老年期の発達課題		
13		喪失体験		
14		老年期をめぐる今日的課題		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ、期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老 化の理解 中央法規 配布資料	期末試験 授業態度 出席率	70.0% 20.0% 10.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
1. 老化にともなうところとからだの変化と生活 2. 高齢者と健康				
授業終了時の到達目標				
1. 老化に伴う変化と課題が理解できる 2. 高齢者の疾患について知識をもち、身体的・心理的側面にどのようにアプローチすればよいか判断できるようになる 3. 保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響(感覚器系の機能の変化と生活への影響まで)		
2		老化にともなう身体的な変化と生活への影響(血液・循環器系の機能の変化と生活への影響～)		
3		老化にともなう心理的な変化と生活への影響(認知機能の変化)		
4		老化にともなう心理的な変化と生活への影響(知的機能の変化～)		
5		老化にともなう社会的な変化と生活への影響(社会の中での生活上の課題)		
6	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康		
7		高齢者の症状・疾患の特徴		
8		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格系・筋系)		
9		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳神経系～循環器系)		
10		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器系～腎・泌尿器系)		
11		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(内分泌・代謝系、歯・口腔疾患)		
12		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(悪性新生物、感染症)		
13		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(精神疾患、その他)		
14		保健医療職との連携		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ・期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老 化の理解 中央法規	期末試験 授業態度 出席率 課題・レポート	50.0% 10.0% 10.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
1. 認知症の基礎的理解 2. 認知症の症状・診断・治療・予防 3. 認知症を取り巻く状況				
授業終了時の到達目標				
1. 認知症について正しく理解する 2. 認知症当事者の視点から見えるものや取り巻く状況を理解し、具体的な支援策を考えることができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	認知症の基礎的理解	認知症とは何か		
2		脳のしくみ		
3		認知症の人の心理		
4	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状の理解		
5		生活障害の理解		
6		BPSDの理解		
7		主要なBPSD		
8		認知症の診断と重症度		
9		認知症の原因疾患と症状・生活障害		
10		認知症の治療薬・予防		
11	障害をかかえて生きることへの支援	認知症を取り巻く状況 これまでー今ーこれから		
12		認知症ケアと理念の視点		
13		認知症当事者の視点からみえるもの①		
14		認知症当事者の視点からみえるもの②		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ、期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 理解	介護福祉士養成講座 1 3 認知症の 中央法規	期末試験 授業態度 出席率	70.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
1. 認知機能障害による生活への影響と認知症ケア 2. 家族への支援 3. 多職種との連携と協働				
授業終了時の到達目標				
1. 認知症の人の特性を理解し、支える家族を含めた支援・サポート体制を考えることができる 2. 認知症の人の生活障害へのケアについて理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	認知症ケアの実際	パーソン・センタード・ケア		
2		認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール(アセスメントツール)		
3		認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール(健康状態のアセスメント)		
4		認知症の人とのコミュニケーション		
5		認知症の人へのケア(食事・排泄ケア)		
6		認知症の人へのケア(入浴・清潔保持・休息と睡眠のケア)		
7		認知症の人へのケア(活動・生きがい・BPSDのケア)		
8		認知症の人への様々なアプローチ		
9		認知症の人の終末期医療と介護		
10		環境づくり		
11	介護者支援	家族への支援		
12		介護福祉職への支援		
13	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり		
14		多職種連携と協働		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ・期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 理解	介護福祉士養成講座 1 3 認知症の 中央法規	期末試験 授業態度 出席率	70.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
1. 障害の基礎的理解 2. 障害者福祉についての理解 3. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援				
授業終了時の到達目標				
1. 医学的な知識に基づいて障害を理解する 2. 障害のある人の心理的側面や生活面も含めた支援を考えられる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	看護師として8年の実務経験			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	障害の概念と障害者福祉の基本理念	障害の概念		
2		障害者福祉の基本理念		
3		障害者福祉に関連する制度		
4		障害者福祉制度と介護保険制度		
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I	障害のある人の心理		
6		肢体不自由(運動機能障害)		
7		肢体不自由(生活面の理解と障害の特性に応じた支援)		
8		視覚障害		
9		聴覚・言語障害		
10		重複障害		
11		内部障害①		
12		内部障害②		
13		内部障害③		
14		重症心身障害		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ、期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 解	介護福祉士養成講座 1 4 障害の理 中央法規	期末試験 授業態度 出席率	70.0% 20.0% 10.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	福原 里奈
授業の概要				
1. 障害の基礎的理解 2. 障害別の特性に応じた支援 3. 連携と協働 4. 家族への支援				
授業終了時の到達目標				
1. 医学的な知識に基づいて障害を理解する 2. 障害のある人の心理的側面や生活面も含めた支援を考えられる 3. 地域サポート体制を理解し、障害のある人と家族の支援に活用できる視点を持つ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	知的障害		
2		知的障害の特性に応じた支援		
3		精神障害		
4		精神障害の特性に応じた支援		
5		高次脳機能障害		
6		高次脳機能障害の特性に応じた支援		
7		発達障害		
8		発達障害の特性に応じた支援		
9		難病		
10		難病の特性に応じた支援		
11	連携と協働	地域のサポート体制		
12		チームアプローチ		
13	家族への支援	家族への支援とは		
14		家族介護力の評価と介護負担の軽減		

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ	まとめ・期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 解	介護福祉士養成講座 1 4 障害の理 中央法規	期末試験 授業態度 出席率 課題・レポート	50.0% 20.0% 10.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座 I		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	福原 里奈
授業の概要				
就職活動も含めながら社会人となるための基礎力を身につける				
授業終了時の到達目標				
1) 3KAN教育(1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣)により企業が求める人材を育成する 2) 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3) 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う				
回	テーマ	内容		
1	動機づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3KAN教育について</li> <li>・ 動機づけ</li> <li>・ 担当紹介</li> <li>・ 服装身だしなみ</li> <li>* 就職の手引き配布</li> </ul>		
2	スケジュール管理/適性検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職活動に向けた目標設定を行い、その目標を達成するための計画を立てる</li> <li>・ 適性検査実施</li> <li>・ 就職の手引き説明</li> <li>就職活動手順フローチャート</li> <li>P1 スケジュール確認</li> <li>P5 身だしなみ確認</li> </ul>		
3	スラスラ書ける文章術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職活動に備えたアウトプット中心の訓練</li> <li>書く、話す、考える</li> <li>文章の「型」を体得する</li> <li>・ 論理的思考</li> <li>・ 考えを掘り下げる (「結論」→「根拠・事実」)</li> <li>・ 文章の型の例「なたもだ」</li> </ul>		
4	自己分析	就職の手引き P6-9 自己分析		
5	自己分析	就職の手引き P10-12 自己分析 過去～未来		
6	ポジカルシンキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ものの見方で状況は良くなり、悪くもなる。だったら良くなる考え方をマスターして人生がもっと楽しくなる」ためのきっかけにする。</li> </ul>		
7	自己PR作成	就職の手引き P13-14 自己PR作成(400字)		
8	企業研究	就職の手引き P19-24 就職相談室やインターネットを使って研究		

回	テ ー マ	内 容		
9	読書が楽しくなる読書術(1)	1. 読書の楽しみ方・本の選び方 1) 読書の楽しみ 2) 本の選び方 3) 書店・図書館活用法 2. 読書の活かし方 読んだだけで終わらない読書法 「マスターして人生がもっとたのしくなる」ためのきっかけとする。		
10	自己PR作成および50問50答作成	就職の手引き (P53-P64) ・ 50問50答について説明 【課題】 自己PRの記入		
11	ホスピタリティマインド <sup>®</sup> 社会人としての心得	・ ホスピタリティマインド <sup>®</sup> とは ・ 日本のもてなし文化について ・ 身近なシーンでのホスピタリティ ・ 実践例 ・ 基本的なビジネスマナー ・ 会社訪問 ・ 電話対応 ・ メールでのマナー など		
12	履歴書	・ 履歴書の記入の仕方について 【課題】 履歴書の記入		
13	50問50答、自己PR完成、求職票	・ 50問50答見直し ・ 自己PR完成 ・ 求職票の説明と下書き		
14	50問50答、自己PR完成、求職票	・ 50問50答見直し ・ 自己PR完成 ・ 求職票の説明と下書き		
15	振り返り	・ 目標管理シートに基づき、自己の就職活動への準備について振り返る ・ 今後の活動に向けた新たな目標設定を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
就職の手引き 手帳		出席率	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日本語Ⅱ		介護福祉学科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	川村 久恵
授業の概要				
介護福祉士養成科目内容が理解できるための日本語4技能の運用能力を伸ばす				
授業終了時の到達目標				
JLPTN3に合格できる 漢字・読解の苦手意識をなくす				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師経験16年、看護学校非常勤講師10年以上。 技能実習生に対する日本語教師1年以上		
時間外に必要な学修				
授業で配布したプリントで自主的に復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	N3文法	20日で合格 文法 第16日目		
2	N3文字・語彙	20日で合格 文字・語彙 第16日目		
3	N3語彙 N3読解	基礎から応用漢字 ドリル&ドリル読解		
4	N3文法	20日で合格 文法 第17日目		
5	N3文字・語彙	20日で合格 文字・語彙 第17日目		
6	N3語彙 N3読解	基礎から応用漢字 ドリル&ドリル読解		
7	N3文法	20日で合格 文法 第18日目		
8	N3文字・語彙	20日で合格 文字・語彙 第18日目		
9	N3語彙 N3読解	基礎から応用漢字 ドリル&ドリル読解		
10	N3文法	20日で合格 文法 第19日目		
11	N3語彙 N3読解	20日で合格 文字・語彙 第19日目		
12	N3聴解 N3読解	ドリル&ドリル読解・聴解		
13	N3語彙 N3読解	20日で合格 文法 第20日目		
14	N3語彙 N3読解	20日で合格 文字・語彙 第20日目		

回	テ ー マ	内 容		
15	後期期末試験	20日で合格第16日目から20日目の範囲で言語知識についての確認テストを施行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日本語能力試験20日で合格N3文字・語彙・文法 ドリル&模試N3文字・語彙・文法 基礎から応用までN3文法・語彙・漢字		期末試験 出席率 授業態度	90.0% 5.0% 5.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日本語 I		介護福祉学科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	川村 久恵
授業の概要				
介護福祉士養成科目内容が理解できるための日本語4技能の運用能力を伸ばす N3~2レベルの文字・語彙、文法の習得 読解能力の習得				
授業終了時の到達目標				
JLPTN3に合格できる 漢字・読解の苦手意識をなくす				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師経験16年、看護学校非常勤講師10年以上。 技能実習生に対する日本語教師1年以上		
時間外に必要な学修				
授業で配布したプリントで自主的に復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	N3模試実施	文字・語彙		
2	N3模試実施	文法・聴解		
3	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第11日目
4	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第11日目
5	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第12日目
6	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第12日目
7	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第13日目
8	N3漢字・文字・語彙 読解	漢字 文字語彙14日目 読解問題		
9	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第14日目
10	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文字・語彙 漢字	第15日目
11	JLPT模擬試験	N3、N2クラス別に模試実施		
12	N3の文字・語彙 N3文法 読解	模擬試験の解説 N3文字・語彙・文法		
13	N3の文字・語彙 N3文法 読解	20日で合格 基礎から応用	文法 漢字	第15日目
14	N3の文字・語彙 N3文法 読解	ドリル&ドリルN3読解 基礎から応用 漢字		

回	テ ー マ	内 容		
15	前期末テスト	20日で合格第11日目から15日目の範囲で言語知識についての確認テストを施行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日本語能力試験20日で合格N3文字・語彙・文法 基礎から応用までN3文法・語彙・漢字 ドリル&ドリルN3聴解・読解		確認テスト	90.0%	
		授業態度	5.0%	
		出席率	5.0%	